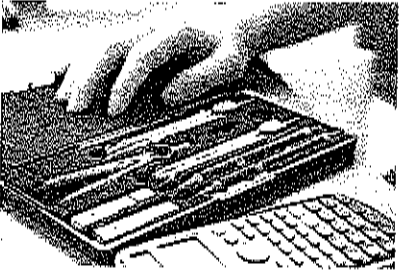


仕送り望めず 中退を選択

その先に見えたもの

2021 衆院選 政策編④



高校時代の僕が書いた
奨学金申請書。奨学金は
「いっかたにしようか」と
と悩んで書いていた

「頑張ったと言っているんですか」。親に頼らず大学生生活を送ってきたものの、コロナ下でバイトがなくなり中退を選択した若者の苦悩です。低所得世帯向けの支援策は拡充されていますが、学びの機会を諦める者も増え、若者も多くなっています。学びたい気持ちを支えたいはとうすねばりませんか考えます。

(日本橋市)

新生活のための家賃も最初の1、2カ月の生活費は、両親から援助してもらったものの、コロナ前まで、仕送りに一切頼らず、学費も生活費も月約5万円の奨学金と約8万円のアルバイト代でまかなっていた。バイト代は年取100万円を超えたと親の扶養から外れ、親の税負担が増える。それを越えないギリギリのラインで働いた。

生活は切り詰めた。家賃は3万5千円。基本は自炊で、安いかたまり肉を買い、薄く切って冷凍し、少しずつ食べたい。何もない時はごはんだけを食す。学食でさえも高い、と感じた。服を買うのは1年に1回ほどだった。

た。週り、6回でバイトに入っていた分、テスト前に一気に勉強するとはできない。「他の人が1週間前にするのを、1カ月前から準備した」。授業はほぼ欠席しなかった。1年留年はしたものの、単位もほぼ取得し、来年の卒業を目指していた。

「コロナ下で、計画は狂った。昨年の1回目の緊急事態宣言でバイト先が休業。わずかな手当はもらったが、生活は急激に厳しくなった。新たにバイトを探したが、民間は授業があるため夜しか働けない。真夏でも開いていたマザーズ店でのホールのバイトを見つけたが、ほとんど稼げなかった。

「大学中退」「就職」と誘われて検査し、中退者の就職を支援している「ジェイック」(東京)に近づいた。すぐに相談し、就活をはじめた。面接で履歴書の学歴をみて「あと少したったのに、もったいな」と言った社長がいた。これまでの、頑張りを買ってもらえた気がした。

「オ、頑張ったって聞いていいですか。そう思えませんでした」

その社長が営む解雇後の会社で11月から働く。「奨学金も返さなきゃいけない。稼いでる方がいいなら」と「就職で引越すため、段ボールに荷物をまとめた。教科書を手にした時、入学時に抱いた希望がよみがえった。広いキャンパスに、合宿した仲間との会話。将来は研究者になりたい」。そんな思いを一瞬、抱いた。「今から願えば、許されていたかな。社会人になっても、もし、学びたいれば勉強できますよ。お要」と話す。

支援からこぼれる中所得層 教育の無償化など各党公約

ジェイックは、年間2千人以上の大学中退者や中退を検討している学生らから問い合わせを受け、経済事情や学力不振、大学とのコミュニケーション不足などを理由に中退した。昨年はコロナ下で、アルバイトのシフトに入れない生活が苦しいなどの声も目立った。

独立行政法人日本学生支援機構によると、日本の大学生の34%(2020年度)が貧乏で悩んでいる。2020年度は貧乏で悩む大学生が100万人を超えたと推定されている。

与野党が掲げる公約には、奨学金を減額し、給付型奨学金を拡充した。収入が一定の範囲内であれば、給付型奨学金を受けられる。教育機関すべてが対象ではなく条件があり、奨学金を受けられない学校もある。小林教授は「支援から離れた中所得層への教育支援は大きな課題。対

自民党は所得連動型奨学金制度や多世帯支援の検討を断る。公明党は結婚、妊娠・出産から高等教育までの支援を充実させる「1+1+1」の策定を、立憲民主党は国立大の授業料の半額までの引き下げ、私立大学生に対する給付型奨学金を拡充することを掲げる。共産党は高等教育の無償化を目指す。日本維新の会は教育の無償化の無償化を憲法上の原則として定め、これを掲げる。国民民主党は高校までの無償化の実現を、れいわ新選組は学費無償化を断る。社民党は奨学金を原則給付型とすることを掲げる。れいわの